秋田大学教育文化学部附属小学校
公開研究協議会
2026年11月20日

自律した学習者が育つ授業デザイン
―子どものドラマと教材のドラマを紡ぐ―

鹿毛雅治
慶應義塾大学
教職課程センター／大学院社会学研究科

授業をデザインするために

■2つの「ドラマ」

子どものドラマ
―人ひとりの子どもとその変容



教材のドラマ
教師による教材や指導の捉え

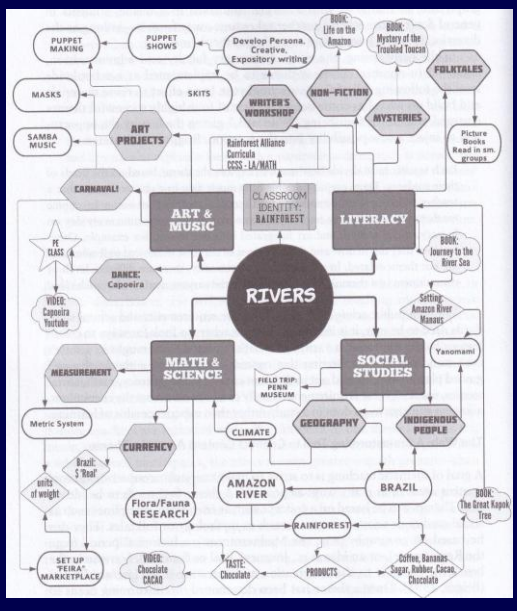
学習材研究

■学びの深まりに開かれた単元構成

■「材」から学びの発展的な展開（学びの深まり）をあらかじめ予想（想像）する←概念マップ

■学びの展開に応じてカリキュラムが創発される

「創発カリキュラム」へ
（生成カリキュラム：emergent curriculum）



「評価」から「見取り」へ

「徒競走」モデル



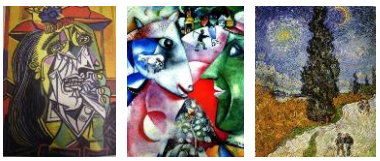
順位　点数　ランク

量的

優越感　劣等感

ナンバー・ワンを評価する

「絵画（展覧会）」モデル



持ち味　卓越さ　長短

質的

ひとり十色　自信・自尊心

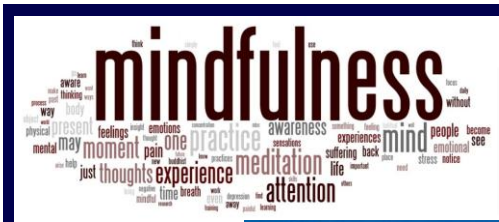
オンリー・ワンを見取る

「子どもが学ぶ」場を創るために

「子どもの姿」を常に念頭に置く

子どもの姿とは
個性的なひとり一人の子どもの具体的な様子や多様なありさまのこと。

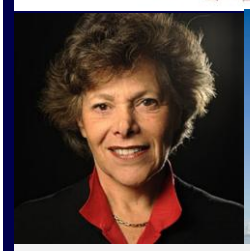
- 「子どもの姿」の背後にある**意味**について、学びや成長という観点から**理解**しようとする
- 「子どもの姿」を拠り所として、今後の**学びの展開を見通し**、授業を創り出す



"Mindfulness is the process of actively noticing new things. When you do that, it puts you in the present. It makes you more sensitive to context and perspective. It's the essence of engagement" Ellen Langer

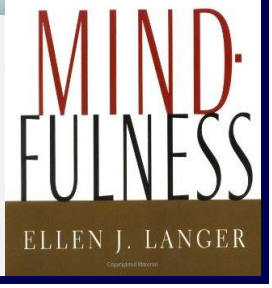


"Stretches our minds in startling new directions." —Howard Gardner





「マインドフルネス」とは新しいことに
活き活きと気づくプロセスのことです。
その時、あなたは現在に委ねられ、文脈に対して敏感になります。それは没頭体験の本質なのです（E.ランガー）。



子どもの主体的な学びをみとるために

■教師の「居方」：2つのモード

子どもの
学びに
気づく感性

マインドフル（mindfulness）

現時点で起きている出来事や体験に注意が向けられ、
文脈や展望（perspective）に敏感で、
外的事象を価値判断しようとするのではなく、
新鮮な気づきに対して開かれた柔軟な心理状態
＝「あるがまま」をみる

「今、ここ」に
心を注ぐ

マインドレス（mindlessness）

固定的なマインドセット（mind-set）にとらわれて
文脈や展望に気づかず、
規則やルーティンに支配された心理状態
＝「固定観念にとらわれ」てみる